

まちづくり憲章

まちの魂を短歌でうたう世界初の試み！



も若きも共に織る(居る)街」この街は老いも若きも織う道」誰が訪くあん
ど真中安心安全快適な

衣食と住のわが街

「仕入れ中です」立て看板／あいさつで心あんきなまちかどに こには天神社
か／二本足四つ揃ばかりで見当たらず 鶴二丁目どにからだこ今まで／子が
史とともに未来に向かい通りが広場なら安心／安心や安全などいう事を

果てしなく未知への進化遂げる街

錦の光世界へ照らす

夢あらばゑびす長者になれるまち
知恵と才覚ここに集わん

種類創造の大田園（ついだいん）といふおおりのまやはばが通る。おりに今までのものと多種、飲食店にて、また幸せをとことよに勤むる百口、時が心と併倅停薄す。何故言ひ日本（ほんにほ）の街は、この街で最も多く使はれて、永くわざの衆（しゆう）に新らん、うるいと說ふ、わあ行き交て、めでを広げて居た。二月一日、業（わざ）しなまえ知（し）への邊に渡る船（ふね）の光世（みつよし）へ照らす、取り戻（とりもど）す氣（き）に満ちてた朱雀（しゆせき）町（まち）の未来（みらい）のみの愛（こゝろ）で、御宿（ごしゆ）街（まち）の流れ（ながれ）を活（なが）さず、新（しん）求（め）一間（いつまん）結（むす）べ、無い情（じやう）想（そう）ままでくらみ

卷之三

A photograph of a traditional Japanese garden. In the foreground, a large, dark, textured rock sits on a low, ornate stone pedestal. Behind it, a white rectangular plaque with black Japanese calligraphy is mounted on a wall. The plaque reads:

せつかく
頂いた
この命
どう
生かそつか

Further back, a stone torii gate stands on a raised platform. A stone lantern is visible on the left, and a building with decorative flower-shaped windows is on the right. The ground is paved with light-colored stones.

卷之三

したたかに歴史息づく碁盤割

にきわいの街子への贈り物

の海老名駅町皆で創始者輝ける栄町へといひもし友の寄るさに無事寺の旗も
■歴史とまちの宝を慈しみ未だへつなげよう 萱定と名駅の荒川飛鳥野、徒步歩行者、
町頭然とす／がむらの手學ならぬ事無事、櫻屋の重里などよ／黙天さんと御利益國の御から
り而先は櫻の御街也、信長さき秀吉君も、那古の御は天下の原／トランクの御から
したたかに歴史息づく基盤割
にぎわいの街子への贈り物

伝馬町道

この街に暮らせることが誇りです
誰もがうらやむ錦二丁目
若い衆/金町たすアインダ/^アあきりとある企業の若者町/マッチなし新規ばかり
みんなー、ひどい(?)アインダ/^アあきりとある企業の若者町/マッチなし新規ばかり
な店の営業で、毎日娘も来ただって、新規のしゃれもののが街中小売のお流れめぐら／まことに
きたいセンの光る品揃え、名品紹介、ファンション発信のまち／またまたいたいセンの光る品揃
え、両面ひしめく錦二丁目／この街に老舗新規集まりて、人一生いる間の街をもいひる／
『住むに値するまち』一等地構の町も並むり果て、住み良い街に勢いつけて／

閑所路地老いも若きも集う庭
打ち水縁台空に進
り一たんだすに女の姿にこじこじなわが街角文化/播磨がわの風情で街古大空原に進
まく、「五つ折の」にこびはくおれいひ、五重やすする播磨「五つ折」に「五つ左」方に
二の間にあふるな笑顔もまっかんだらがまつるにぎわに、「おはがたから空を晴らす」とらら
に水をきつづり笑顔より、越後空き地と播磨の壁/播磨から地をつむぐもの、諭吉
ノ半蔵にセミの声/四箇院六丁目御門の街 大輪咲くぞ! 清ない花火や/道端に新しく
いきゑみて 打ち水縁台空に進む/頭かぶつぼにほまくねも、みくらさせ思ひしての/母

閑所路地老いも若きも集う庭

打ち水縁台空に響く いわが街文化／獲得がわがもの顔で歩く街 大豊原

この街に暮らすことが誇りです
誰もがうらやむ錦二丁目
若い衆／金も手もアイデアもきっとある企業の若手社員長者町／まだなしを経験ばかりい
かんなもー、ひとりで役立つって、お高い荷物がい／間違ふんぞ／入ってみたい
な店の営業まで、母も娘も連れだして、隼太郎のしゃれものが、間屋小売のおれめぐり／まだ行
きたいセンスの光品販売／名古屋フランクション便り／まだ行くたいセンス／光る品販
え、両面ひしめの錦二丁目／この街に老舗新宿集まるで、人生いろいろのお店いろいろ／
『住むに値するまち』　等地図の町も変わり果て、住み良い街に勢いつけて／

打ち水縁台空に進
り一人たずむの春 ここにしなむわが都文化 鶯鶯がわらの歌で步街 大空車
真言「五つ三じご」ばかりでねえな「五つ三じご」も向いて「まつ左右」
二の街あふれる花街「ふくつだ人あつまるにむかひ」お話がから空を駆けたら
に水辺つくりてまことに「越前守の邊の記憶」過去から傳へてつむし人の歌 空
ノボ棚セミの声「四角形十街区画の街 大木曳くぞ」消えない花火「通夜」年齋し
いを込めて打ち水縁台に半月「轟からつづらによれば みちくさせ思ひしてる」母

「一丁目」(黄雀)が苦り添う風景に見守して、第二十日モつと暮れ込む。長者町今と、昔街と、復元した寂しき心痛まん(長者町イメージ)覚えより若者に古びた町へ。
藤が「(ひ)ただけ」と「(ひ)だけではない」(ひ)の差異、また乳ぬくもり通じる「(ひ)のまに」(ひ)のまに新たなビルが立ち並ぶ、どんな町かな若者町。大道に舞いられた
活気でやる長者商店、再開運営。1つに縛り合つ。皆の町さ長者町へ移住地として
進するのかな?きっかけ一つで若者街へ。

人々が営みうらまちかど岡所路地 遊戯遊ぎて生を楽しむ／新緑の下であくびをする人
ぞ 多世代居住の跡二丁目／（住人すみびと）はカラスにネコノ／ララ瓜と 一度は来
てね！ 舞衣町／泥さり合う子どもと大人仕事と暮らし／住まいと仕事がとけあう街
へ／タ焼けに遊戯し子供らの ピルのすきは僕の抜け道／ダンボーラック構み上げ
組み上げの遊戯場／遊戯ははるか昔の遊び／懐い記憶／ハヤシタ、風見鈴／静かな住み
良い面影町／舞あつてこの街にきてはや七年／人情が好き第二丁目／ひとびとに
にぎやかな子どもの声のひびくまち

未来広がるベンチャータウン

多彩な顔を露りだし われなれなみやまらぎの面／どもんなが顔の譲るるがえし 住
みよ町のにお町の

多世代結びあうコミュニティ 眼から子子から孫孫と引き継いで、み
んな暮らす舞／（丁目）／伝統と文化のかおり積みあげて、みんなでつくるにぎやか
なまち／顔やかに人の集まるこのまちは、若者男女みんな楽しむ／（こん）にちは誰と

まちづくり短歌の選考にあたって

住民にとって安心して住みづけられ、商業者にとって活動力をとり戻し、新しい社会状況のものでのまちの元気の創造を目指す「錦2丁目まちづくり憲章」を、短歌表現でつくることになった。

憲章づくりにあたり、規範（あるべき方向）を固い文書でいうのではなく、短歌文庫があるといふ本地区の文化伝統を生かし、規範と慣習を同時に表し短歌をよむことにした。

短歌はまちづくりワークショップの参加者からの62点と、地区内住民・働く人々から106点、計168点（いろは）の作品が寄せられた。「まちづくりへの夢を分かちあう」歴史とまちの宝を恵みし未来をつなげよう「住むに値するまち」等、憲章の（目標）9つをと、それそれぞれを代表するのものを見選び、かつ、全体を束ねる秀歌1つを選んだ。このポスターには、168首全てと10点の代表的作品によって、情理の多様なまちづくりへの想いが表現されている。

世界初の「うた」に託してのまちのビジョンによって、衰退を逆転しうる奔放なエネルギーが満巻き、錦2丁目の創造的まちづくりの過程が次から次へ育まれていくことを願う。

2006年秋 錦二丁目まちづくり憲章短歌選考委員会
選考委員長 延藤 安弘

「一丁目」(黄雀)が苦り添う風景に見守して、第二十日モつと暮れ込む。長者町今と、昔街と、復元した寂しき心痛まん(長者町イメージ)覚えより若者に古びた町へ。
藤が「(ひ)ただけ」と「(ひ)だけではない」(ひ)の差異、また乳ぬくもり通じる「(ひ)のまに」(ひ)のまに新たなビルが立ち並ぶ、どんな町かな若者町。大道に舞いられた
活気でやる長者商店、再開運営。1つに縛り合つ。皆の町さ長者町へ移住地として
進するのかな?きっかけ一つで若者街へ。